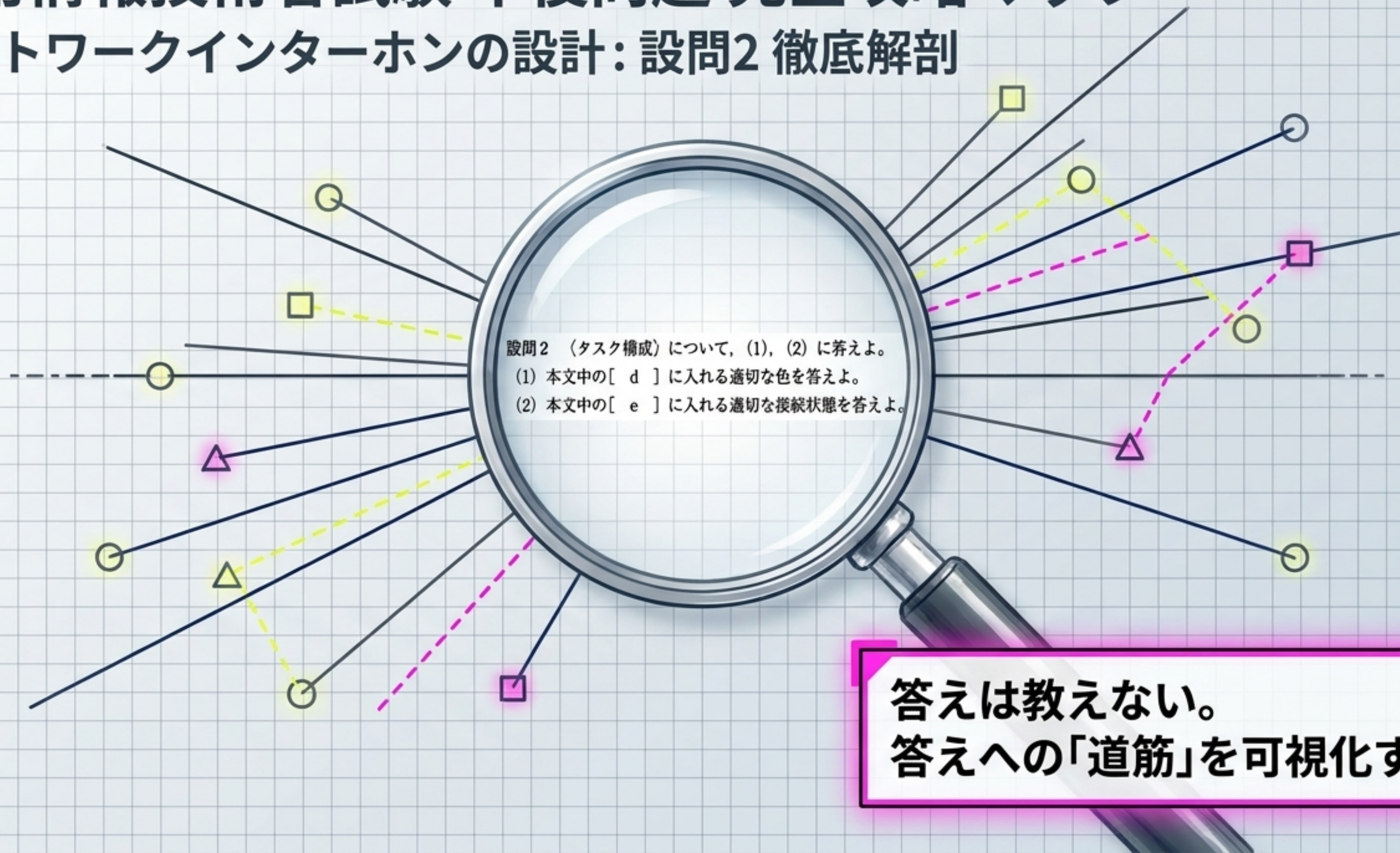


応用情報技術者試験 午後問題 完全攻略マップ

ネットワークインターホンの設計：設問2 徹底解剖



答えは教えない。
答えへの「道筋」を可視化する。

MISSION: 空欄 [d] と [e] の正体を暴け

設問2〔タスク構成〕について、

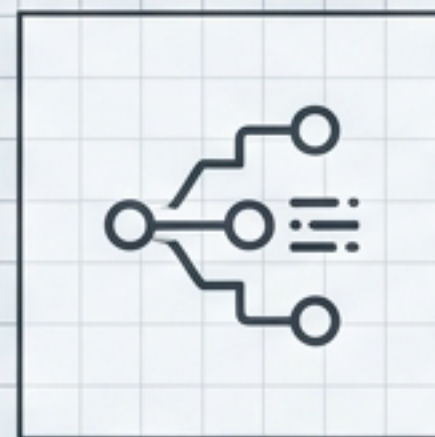
(1) , (2) に答えよ。

(1) 本文中の [d] に入れる適切な色を答えよ。

(2) 本文中の [e] に入れる適切な接続状態を答えよ。



[d] = ボタンの「色」

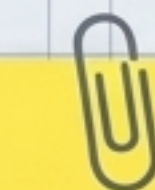


[e] = 端末の
「接続状態」

現場検証：すべての鍵は「制御タスク」の中にある

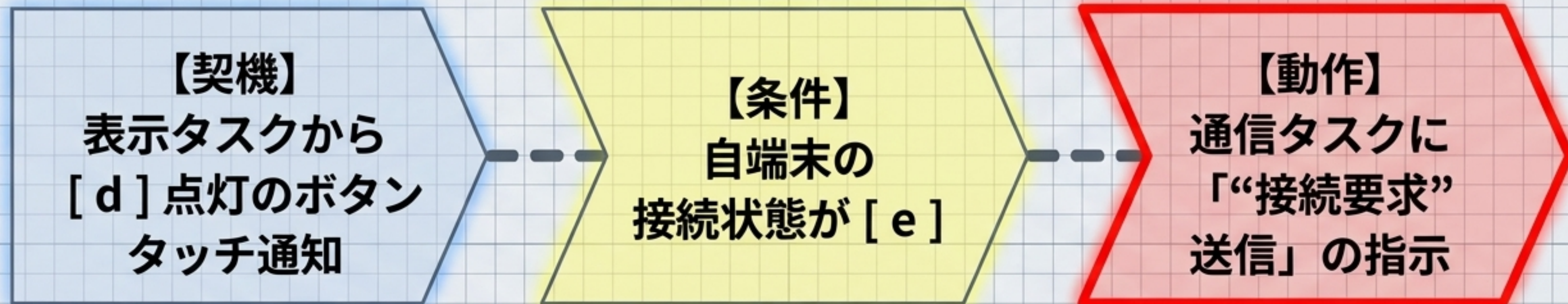
例えば，接続状態が待受けである端末 A が，端末 B を呼び出して通話するときの各端末のボタン操作と端末間の通信は，次のとおりである。

「例えば，表示タスクから，[d]点灯のボタンがタッチされたことを通知されると，自端末の接続状態が[e]のとき，通信タスクに“接続要求”送信の指示を送信する。」



この一文が、今回のパズルのコア（中心）となる。

文章を「システム・ロジック」に分解する



ここが最大のヒント！
システム内で「“接続要求”」を送信する
場面を、別の箇所から探し出せばよい。

午後問題の鉄則：仕様書の「相互参照(クロスリファレンス)」

〔タスク構成〕の
内部ロジック



〔端末のボタン
操作と通信〕

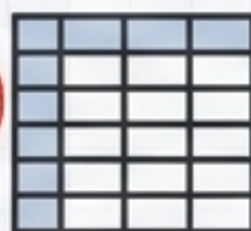


表1

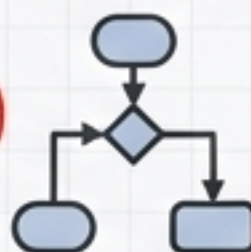


図2

【d】と【e】を特定するため、操作手順と図表へ探索の足を伸ばす。

[d] の探索：アクション（動作）からの逆引き

探すキーワード：
通信タスクに「“接続要求”送信」

【動作】
通信タスクに
「“接続要求”
送信」の指示

〔端末のボタン操作と通信〕

自端末のボタンからは、ボタンを表示したく、“接続要求”を送信できます。また、接続話性開発可能に表示される。

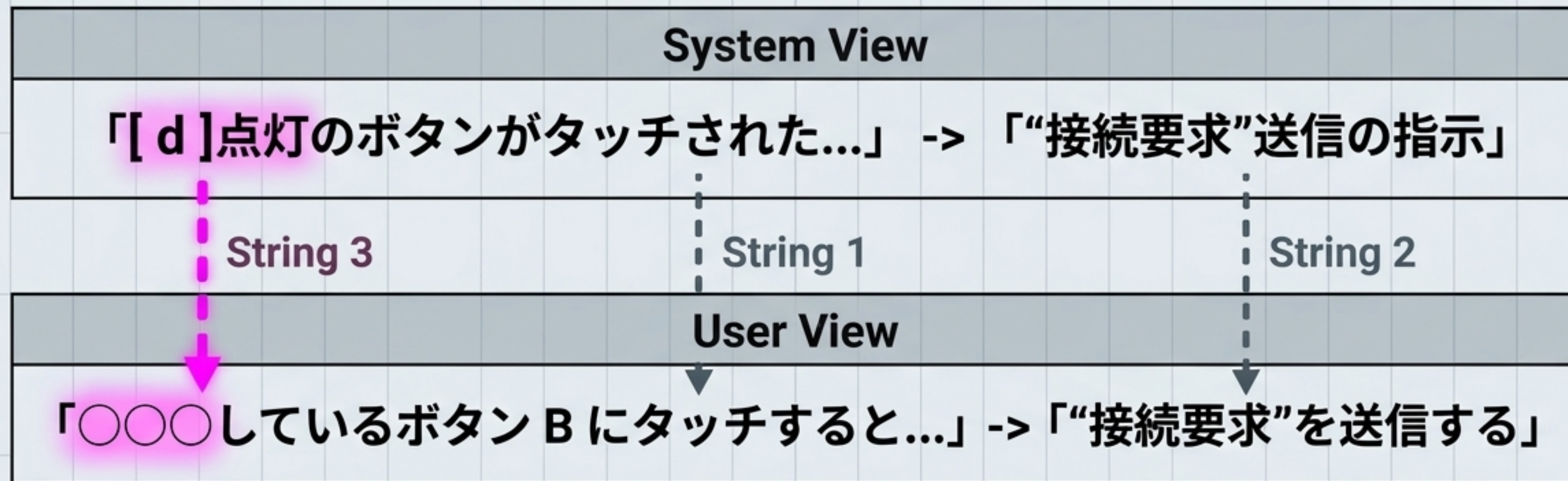
“接続要求”を送信する

このタスクホイクトリームに必動き、それながら、自端末かこを送信することをと付いている。

見つかった！

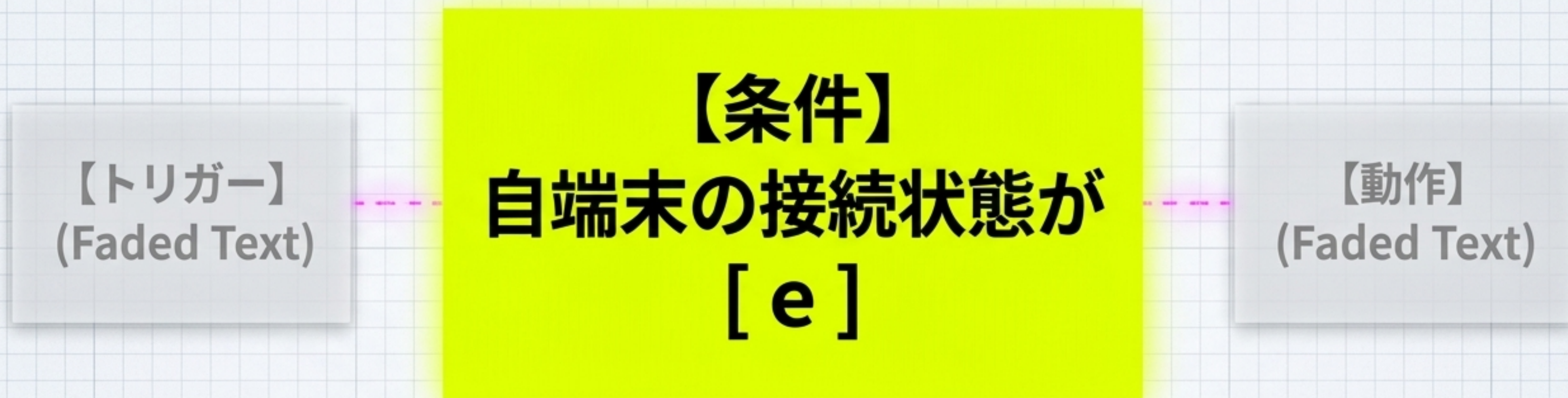
この段落が、制御タスクの動きを
「利用者側」から説明した部分だ。

完全一致の法則：2つの視点を重ね合わせる



2つの文が同じ出来事を指しているなら、[d]に入る「色」は？

次なる標的 [e] : 「前提条件」 を特定せよ



ボタンを押して「接続要求」を送信する直前の段階で、
端末はどのような状態（ステータス）である必要があるか？

優れた仕様書は、重要な状態を複数回（文章・表・図）定義している。
3つの視点から証拠を固めよう。

証拠 1：操作説明の「前提」を読み解く

「例えば、接続状態が〇〇である端末 A が、端末 B を呼び出して通話するときの各端末のボタン操作と端末間の通信は、次のとおりである。」

この一連の通信プロセスが始まる前の、
端末 A の初期状態がここに明記されている。

証拠 2：「状態の定義」から裏付けを取る

接続状態	ボタン	状態の説明
待受け ←	青点灯	ボタンで示された端末が、発呼又は着呼が可能な状態
応答待ち	青点灯	ボタンで示された端末が、呼び出した端末からの応答を待つ状態
発呼	赤点滅	ボタンで示された端末が、自端末を呼び出している状態
着呼	青点滅	ボタンで示された端末が、自端末から呼び出されている状態

そもそも「呼び出して（発呼して）」接続要求を送るためには、論理的にこの状態である必要がある。

証拠 3 : 「状態遷移図」を逆再生する

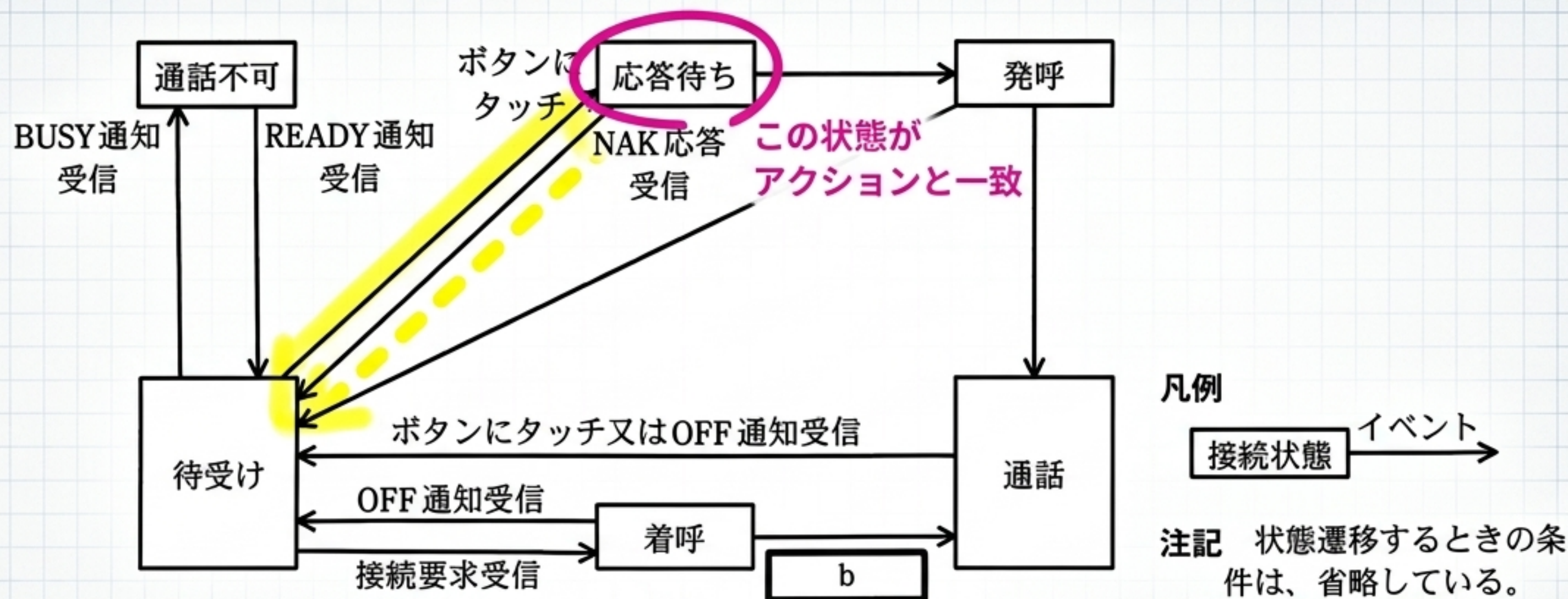
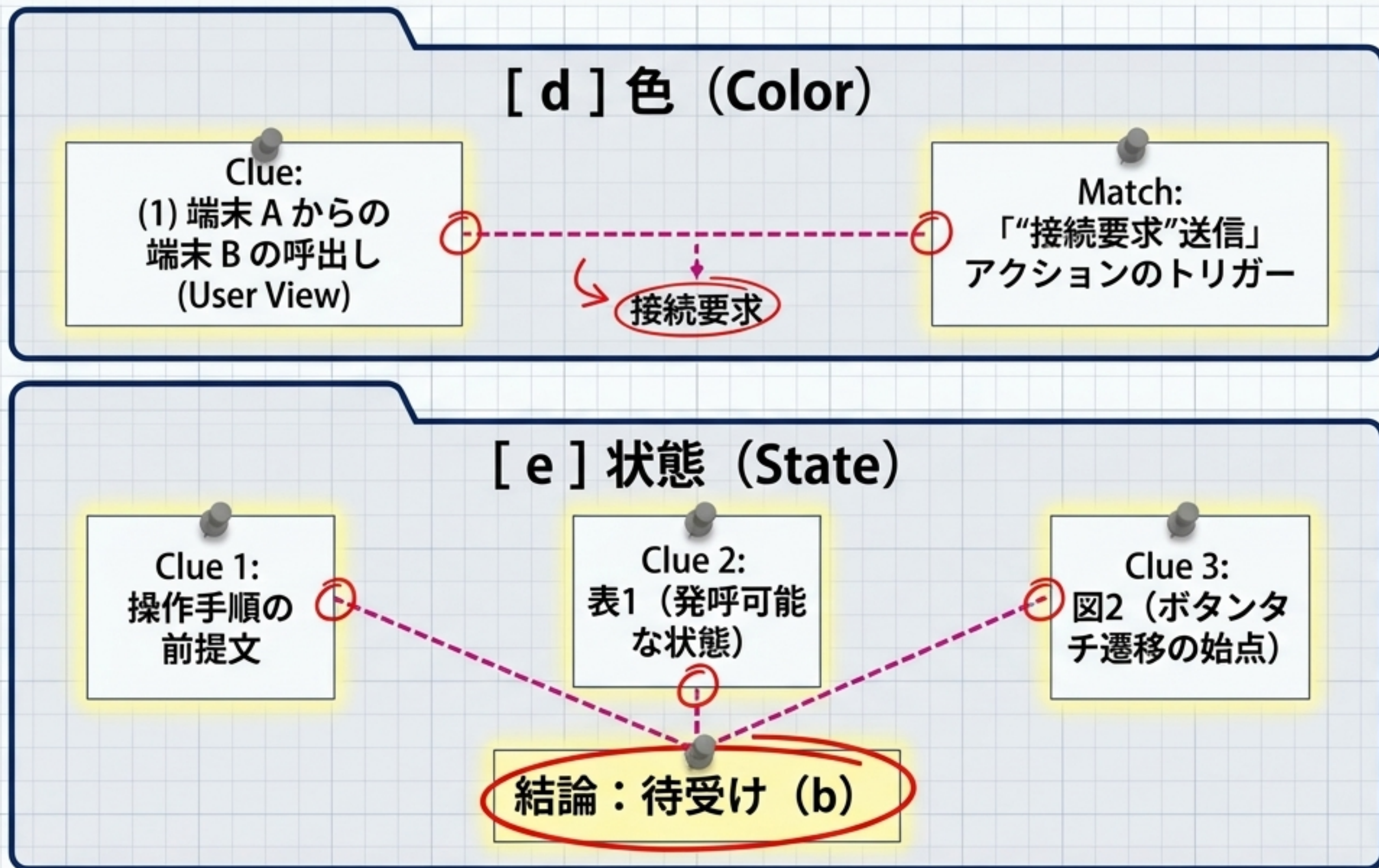


図 2 端末の接続状態の遷移

このアクション（矢印）は、どの状態の箱から出発しているか？
 図を見れば一目瞭然。

証拠の統合 (Synthesis) : すべての線が結ばれる



最終確認：君の導き出した答えを書き込め

☐

ロジックを【契機】【条件】【動作】に分解できたか？

☐

システム内部の処理と、利用者側の操作をリンクさせたか？

☐

状態遷移を図と表の両方からクロスチェックしたか？

証拠はすべて揃った。解答用紙に、[d]と[e]
を埋めて、設問2を突破しよう！

